
誓いのくちづけを

東雲咲夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誓いのくちづけを

【Nコード】

N1159E

【作者名】

東雲咲夜

【あらすじ】

これは、俺から彼女への、誓い。

放課後の、静かな教室。

今だけは、俺と彼女と二人っきりの世界。

彼女は、開け放した窓から外を眺めている。

俺は彼女の隣で一緒に外を眺めている。

長い栗色の髪が、時折風に吹かれて、ふわりと揺れる。

彼女の髪から、柔らかな香りが流れてくる。

月明かりが彼女を照らすとき。

朝日が彼女を照らすとき。

とても彼女は美しくなる。

まばゆいばかりに、光り輝いて俺には見える。

そう……大げさだけど、女神様みたいに見えるんだ。

だけど、俺は女神様みたいだから、彼女のことが好きなんじゃない。
い。

彼女の存在そのものが——愛しいんだ。

困った顔、心配そうな顔、怒った顔。

笑った顔、泣いている顔、楽しそうな顔。

どれもすべて愛しい。

どれもすべて彼女なんだから、当然だけど。

言葉でどれだけ「愛してる」って伝えても足りなくて。

俺は体で、表情で表現するんだ。愛してるって。

そのたびに彼女に笑われてしまう。大げさだって。

そんな微笑すら、見れて嬉しいと感じる俺。

大げさだって、オーバーだって、何だっつかまわない。だって、彼女を愛している。

それが、俺の嘘偽りのない気持ちなんだから。

心が、叫んでいるんだ。愛してると。

大好きと愛しているは違う。

似ているけれども、言葉にしたときの重さが違うんだ。だから、伝え間違えてはいけない。

前に流れてきた髪を、かき上げる。

そんな仕草でさえ、いとおしくて。

つい微笑んでしまうんだ。

そんな俺を見て、彼女もまた微笑む。

ああ、なんて幸せな世界。

でも、俺は知っているんだ。

この幸せな世界は、ほんの些細な事で崩れてしまうつて。

一瞬の決断が、運命を分けるつて。

手を離してしまつたら――陽炎のように、揺らめいて……消えてしまふのだろう。

俺が壊してしまうのかもしれないし、彼女が壊してしまうのかもしれない。

他人に壊されてしまふのかもしれないし、死に壊されるのかもしれない。

俺は、彼女は、とても非力な存在だから。

ちっぽけな存在だから、大きな流れには抗えない。

時の流れに、人は逆らえないんだから。

俺が明日いなくなつてしまふかもしれないし、彼女がいなくなつ

てしまうかもしれない。

お互いが喧嘩して、嫌いになって、別れてしまうかもしれない。色々なことが起こるかもしれないんだ。

きっかけは、いつでも、すぐそこにあるんだから。

何が起きてても、不思議じゃあないんだ。

理不尽なほど、強引に巻き込まれてしまうこともある。

自分から、災難に飛び込むこともあるだろう。

それでも、俺は彼女を守る。

一見カッコよさそうに聞こえるけれど、たいしたことじゃない。ただ、彼女の傍にいるだけさ。

危ないことがあったら、守ってあげよう。

悲しいことがあったら、何も言わずに抱きしめてあげよう。

嬉しいことがあったら、ただそつと髪を撫でてあげよう。

眠れぬ夜があったら、静かに子守唄を歌おう。

一人寂しい時は、俺が手を握ってあげよう。

俺一人じゃ、どうにもならないこともあるかもしれない。

特別ななんて持たない俺には、無駄なこともあるかもしれない。

俺が何をして、結末が決まっていることも。

でも、俺はあきらめない。

無駄だと分かっているても、最後まで守り通す。

彼女が離れてしまおうとしても、傍にいられる最後の一瞬まで。

駄目でも、ぎりぎりまでは足掻いてみせる。

——これを、人は無駄な行為と呼ぶんだろうか。

無駄かどうかは、当事者達が決めるんだ。

他人にとにかく言われる筋合いはないんだ。

意味があると思えば、あるし、ないと思うのならば、無意味。
誰もが権利を持っているんだ。

砂時計の砂が零れ落ちるように、水が流れるように――
時は静かに、ただ過ぎ行く。

俺はその長いけれども、刹那の時間の中で、彼女に寄り添おう。
苦しいことがあっても、悲しいことがあっても――彼女を一人に
はしない。

俺が支えてあげる。

それが、俺の彼女への誓い。
約束なんだ。

彼女といつまでも一緒にいられますように。

それは俺の願い。

永遠なんて存在しないけれど……彼女なら永遠を見せてくれるか
もしれない。

それは俺の希望。

さあ、この想いを、この誓いを、この願いを。
彼女に伝えよう。

やさしい……くちづけと共に。

（後書き）

最近暗いのばかり書いていたので、たまには明るいものを書いてみました。

——いかがでしたでしょうか？

私、恋愛経験皆無なので……恋愛になっているのか不安なところですよ。

無駄なことや、意味のない事などないと信じたい。

最後までお読みくださり、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1159e/>

誓いのくちづけを

2011年1月26日11時23分発行